

保護者様

横浜市立矢向小学校

校長 工藤 雅彦

令和元年度 全国学力・学習状況調査結果について

本年度、実施した全国学力・学習状況調査（小学校6年生・中学校3年生対象）の結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取り組みについてご説明させていただきます。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。この調査結果に一喜一憂することなく、児童一人ひとりの力をつけることに引き続き取り組んでまいります。保護者の皆様には、本調査の趣旨を十分に理解した受け止め方をさせていただきますよう、お願いいたします。

(1) 教科学習状況調査結果「平均正答率 (%)」

※本年度より A 問題、B 問題の区分がなく調査をしています。

	国語	算数
矢向小学校	65%	67%
横浜市	63%	69%
神奈川県	61%	67%
全国	63.8%	66.6%

< 全国の正答率と比較して結果に特徴のある問題 >

	全国よりも上回った問題（出題の趣旨）	課題のある問題（出題の趣旨）
国語	<p>【書く能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える。 ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。 <p>【読む能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。 <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。（読む） ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。 	<p>【話す・聞く能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて質問を工夫する。 ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。 <p>【書く能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表やグラフなどを用いた目的を捉える。 <p>【読む能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む。 <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。（書く）
算数	<p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。 ・場面状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる。 <p>【数量や図形についての技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。 <p>【数量や図形についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示された除法の式の意味を理解している。 	<p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。 <p>【数量や図形についての技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。 <p>【数量や図形についての知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台形について理解している。

【教科学習状況調査結果の考察】

本年度より A 問題（知識）、B 問題（活用）の区分がなく調査が実施され、（知識）と（活用）双方の評価がされる問題が多く出題された。その中、国語、算数共に全国の平均正答率を上回る結果を出ていることから、本校の子どもたちに日々の学びがしっかりと定着していると捉えることができる。全国の正答率と比較して結果に特徴のある問題を見ると、問題内容を正確に捉え、知識及び技能を活用し、解決することができていることがわかる。一方で、自分の考えをまとめたり、説明したりする問題に関しては、国語・算数ともに課題が残る結果となった。今後、思考したり、判断したり、表現したりする力を育成する必要があると考察できる。さらに、国語、算数共に正答率に 2 極化の傾向が見られることから、個に応じた指導も引き続き丁寧に行っていくことを大切にしていく。

(2) 質問紙調査結果【 () 内の数字は全国平均 】

＜全国の平均と比較して結果に特徴のある質問＞

【全国平均を上回った質問】

- ・国語の授業の内容がよくわかりますか。・・・47.7% (41.2%)
- ・国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。・・・42.3% (37.2%)
- ・算数の授業の内容がよくわかりますか。・・・51.4% (49.3%)
- ・算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。・・・53.2% (51.7%)

【全国平均を下回った質問】

- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。・・・28.8% (36.2%)
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。・・・35.1% (46.3%)

【質問紙調査結果の考察】

上記した、全国平均を上回った質問の他にも「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」という設問に対して、肯定的に回答している児童が全国の平均よりも多くいることから、学んだことを活用しようとする意識の高いことがわかる。一方で上記した、全国平均を下回った質問の他にも「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」という質問でも、肯定的に回答している児童は全国の平均より少ない結果となった。自ら課題に取り組んだり、粘り強く考えたりする力を育成していく必要があると考察できる。

(3) 学力向上に向けた今後の取り組み

- ・子どもたちが基礎的な知識及び技能を正しく身に付ける必要感を感じられる授業づくりを継続します。
- ・考えを伝え合う対話的な学びの場面を設定し、思考したり、判断したり、表現したりする力を育てます。
- ・自分たちで課題や問題を見つけ解決する、問題解決的な学習を多く取り入れ、計画的に学ぶことと最後まで粘り強く取り組む力を伸ばせるよう授業改善を行います。

調査結果から見て特徴のある設問

全国の平均正答率と横浜市の平均正答率の差が 4 ポイント以上あった問題は、次のとおりです。

【国語】・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」設問が 6 ポイント低い。

【算数】・「資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。」設問が 6 ポイント高い。

- ・「2010 年の市全体の水の使用量が 1980 年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる」設問が 5 ポイント高い。

横浜市記者発表資料より